

以下は、現地経営者の話を直接聞き、各種の現地新聞を読み、私がまとめたものである。
しかし事態を完璧にフォロー仕切れているとは言い難いので、扱いには慎重を期していただきたい。

1. 5 / 12・13、ダッカ郊外のアシュリア工業ベルト地帯で、繊維産業労働者と警察が衝突

5 / 12・13の両日、ダッカ郊外のアシュリア工業ベルト地帯で、繊維産業労働者と警察が衝突した。ハミンググループのアーティスティックデザイン会社の労働者が、同僚が警察に拘留中に拷問を受けて死亡したとの噂を聞き、警察署に押し寄せたことから、暴動が始まった。付近の工場からも労働者が加わって、その数は数千人となった。しかもその最中に、衣料労働者の一人が車にはねられて死亡したため、それに怒った労働者たちは、高速道路を占拠し交通を遮断した。さらにそこにあった50台以上の車を破壊した。また近辺の50の工場に投石し、ハミンググループの12の工場の機械などを壊した。その後、1000人以上の警察が現場に出勤し、ゴム弾を発砲し、この暴動に対峙した。この暴動で、10人ほどの警察と100人以上の労働者が負傷した。13日の午後1時ごろ、拷問死したとされていた労働者が警察から釈放され、姿を現したので暴動は一時的に鎮まった。この間、アシュリア工業ベルト地帯にある350ほどの工場が、操業を中止し、労働者を帰宅させた。ハミンググループの損害は1億タカ(100万US\$)以上と見積もられている。

2. 6 / 11・12・13、再び、アシュリア工業ベルト地帯で、繊維産業労働者と警察が衝突

6 / 10、アーティスティックデザイン会社の労働者たちが、賃金引き上げを求めてデモを始めた。6 / 11・12・13、アシュリア工業ベルト地帯の労働者たちも、1500~2000タカの月額賃金アップの要求を掲げ、デモに加わった。これに警察が介入したため、怒った労働者たちが、再びダッカ~タンガイルの高速道路を占拠、交通妨害をし、排除しようとする警察と激しく衝突した。また労働者たちは、通行中のバスなどを止め、中の乗客を閉じ込めてしまったり、駐車中の車を破壊したり、タイヤを燃やし付近のベンチなどを焼いたりした。数万人の労働者がこの暴動に参加し、アシュリア工業ベルト地帯が完全に無法化したため、3000人以上の警察が出勤し、事態を鎮めた。

3. 6 / 17、バングラデシュ衣料品メーカーおよび輸出協会(BGMEA)が、団結してロックアウト開始

6 / 16、バングラデシュ衣料品メーカーおよび輸出協会(BGMEA)と、バングラデシュニットメーカーおよび輸出協会の両団体は、暴動に巻き込まれているアシュリア工業ベルト地帯の繊維工場を、6 / 17から無期限で工場閉鎖をすると決定した。アシュリア工業ベルト地帯には、約350の繊維工場があり、そのほとんどがこの決定に従う意向を示した。BGMEAの会長は、「政府が工場操業の安全を確保しない限り、工場を稼働させない。今回の労働者の暴動は、正規労働者が賃上げを求めたものではなく、非正規労働者などを扇動して、権益を拡大しようとしているグループの仕業である。アシュリア工業ベルト地帯の工場経営者たちは、団結して工場を閉鎖し、これらの策謀を粉碎する。労働者が要求を取り下げ、騒動をやめない限り、工場を再開することはない。ただしアシュリア工業ベルト地帯以外の工場は稼働させる」との声明を発表した。

4. 6 / 21、アシュリア工業ベルト地帯の繊維工場、再開

6 / 20、アシュリアの工場経営者代表、労働者代表および労働省高官の三者会議が開かれた。この会議の後、BGMEAの会長は、「政府から十分な安全保障と、今回の暴動の黒幕の徹底調査の確約を得たので、我々は明日から工場を再開する。また全ての工場経営者は生産を再開するように」と、発表した。さらに「今回の会議では、一部の労働者が要求していた賃金引き上げについて、まったく話し合われなかった」と、付け加えた。アシュリア工業ベルト地帯の工場経営者の一致団結した工場閉鎖(ロックアウト)は、一時的に労働者側を押さえ込むことに成功した模様である。なお、一部の工場経営者は、「今後、今回のような騒動が起きたら、ロックアウトし全員解雇。ただちに新人を採用し、工場を稼働させる」と、息巻いていたという。6 / 23には、アシュリア工業ベルト地帯の全工場が稼働を再開した。

5. アシュリア工業ベルト地帯の繊維工場をめぐる諸事情

- ・バングラデシュの輸出の約80%が繊維製品で占められており、長期間にわたる工場閉鎖はバングラデシュ国家財政を直撃する。そのため政府は、今回の騒動を短期間で収束させるため、奔走した。
- ・バングラデシュの政界は安定しているとは言い難く、歴史的に見て、選挙の結果、下野した政党が暴動を扇動し、現政権を揺さぶるのが常であった。今回の暴動も、来年の選挙をにらんだ野党勢力の策動であったと見られている。
- ・シェイフ・ハシナ首相が、「外国人バイヤーがバングラデシュを訪れ、もっとも多くのオーダーを発注するピークシーズ

- ンに、いつも起きるこのような暴動には、策謀があるのではないか。取り調べるように」、との発言をした。
- ・アシュリア工業ベルト地帯には、繊維の大型工場が集中しており、2年前にも大きな暴動が起きた。つまり政党間の争いのターゲットになりやすい地帯でもある。他の工業団地や市内に散在している繊維工場では、ストライキなどは起きていない。私の工場も影響は全くなかった。ただしチッタゴンでは一部の工場で、争議が起きたという情報がある。
 - ・バングラデシュでは、最近、物価の値上がりが激しく、ことに家賃が暴騰している。田舎からダッカに働きに出てきている労働者にとっては、この家賃の値上がりが大きく生活を圧迫している。中でも工場が集中しているアシュリア工業ベルト地帯周辺の借家は、需給の関係で値上がりが激しく、1年の間に3～4回の家賃値上げも珍しくないという。現在、政府はアシュリア周辺の家賃をコントロールする処置を検討している。
 - ・今回の騒動で、労働者たちは、「月給の50%アップ」を要求していた。アシュリアの工場経営者の中には、「インフレが激しい現状では、近日中に、労働者の要求を先取りして、給与アップを考えざるを得ないだろう。また宿舍の問題や、工場での食事の提供を前向きに考えなければならないだろう」と、話している人もいる。

以上